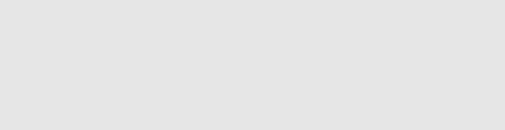


国立天文台収蔵品データベース					
第一赤道儀室	解説・備考	左右対称の張出通路付鉄筋コンクリート造の円筒状躯体の上に、手動で屋根の開閉と回転を行う直径5.6mの鉄骨造ドームが載った外観である。ドームは手動でスリットの開閉と回転ができる。室内には口径20cmのツァイス製望遠鏡が収められている。三鷹キャンパス内にある大赤道儀室と同様に、東京帝国大学営繕課の設計である。	解説・備考引用	国立天文台ニュース2013年7月号 国立天文台アーカイブ・カタログ 第16回、文化庁国指定文化財等データベース	大分類 建物 中分類 観測施設 小分類 観測ドーム 様式 材料 鉄、コンクリート 指定種別 国登録有形文化財(建造物) 指定番号 13-0126 指定日付 2002年02月14日
英語名 20-cm Telescope Dome			制作者 東京天文台 制作時期 1921年竣工 制作場所 東京都三鷹 印章・銘記		識別子 NAOJMIT0000001 収蔵場所 野外(三鷹本部)
大赤道儀室	解説・備考	頂部にロンバルト帯風の蛇腹をめぐるした円筒状鉄筋コンクリート造躯体に、直径15mの銅板葺鉄骨造ドームが載っていて、総高19.5mである。このドームの建造には造船所技師の支援を得た。室内にはツァイス製の口径65cm屈折式望遠鏡が収められている。望遠鏡の鏡筒の方向と傾きに合わせて、ドームが回転し、赤い円形観測床も接眼部の高さに合わせて上下するエレベーターようになっていた。東京帝国大学営繕課の設計である。	解説・備考引用	国立天文台ニュース2012年9月号 国立天文台アーカイブ・カタログ 第06回、国立天文台ニュース2007年3月号、文化庁国指定文化財等データベース、アーカイブ新聞 792号、448号、443号、303号、270号、227号、223号、113号、102号、69号	大分類 建物 中分類 観測施設 小分類 観測ドーム 様式 材料 鉄、コンクリート、銅 指定種別 国登録有形文化財(建造物) 指定番号 13-0125 指定日付 2002年02月14日
英語名 65-cm Telescope Dome			制作者 東京帝国大学営繕課 制作時期 1926年竣工 制作場所 東京都三鷹 印章・銘記		識別子 NAOJMIT0000002 収蔵場所 野外(三鷹本部)
太陽塔望遠鏡	解説・備考	アインシュタインの相対性原理の検証を主目的として建てられ、アインシュタイン塔の名で知られている。観測室を頂部にもつ塔状の外観が特徴で、塔の内部には建物と絶縁された機械室が上部までつながっており、その周囲に階段と準備室が設けられている。	解説・備考引用	国立天文台ニュース2012年5月号 国立天文台アーカイブ・カタログ 第02回、文化庁国指定文化財等データベース、アーカイブ新聞 721号、702号、701号、700号、698号、697号、675号、660号、657号、601号、598号、580号、560号、451号、418	大分類 建物 中分類 観測施設 小分類 観測ドーム 様式 材料 鉄、コンクリート 指定種別 国登録有形文化財(建造物) 指定番号 13-0010 指定日付 1998年07月23日
英語名 Solar Tower Telescope			制作者 東京天文台 制作時期 1930年竣工 制作場所 東京都三鷹 印章・銘記		識別子 NAOJMIT0000003 収蔵場所 野外(三鷹本部)
レプソルド子午儀室	解説・備考	子午線上を通過する天体を観測し、その地の経度や時刻を決める子午儀を納めた建物。セセッション風の意匠を持つ鉄筋コンクリート造平屋建の建物で、鉄骨造の小屋根組はレール上に据えられ、観測時には鉄骨造の切妻屋根が中央から開き、子午儀上方の空を観測できるようになっている。	解説・備考引用	国立天文台ニュース2014年3月号 国立天文台アーカイブ・カタログ 第24回、アーカイブ新聞 709号、307号、86号、文化庁国指定文化財等データベース	大分類 建物 中分類 観測施設 小分類 スライディング・ルーフ 様式 セセッション様式 材料 コンクリート、鉄板 指定種別 国登録有形文化財(建造物) 指定番号 13-0330 指定日付 2014年4月25日
英語名 Repsold Transit Instrument Building			制作者 東京天文台 制作時期 1925年竣工 制作場所 東京都三鷹 印章・銘記		識別子 NAOJMIT0000004 収蔵場所 野外(三鷹本部)
守衛所	解説・備考	正門を入れて右手にある建物。木造平屋建切妻造平入で、正面に切妻屋根の玄関を付し、玄関上部や妻面にハーフティンバー風の意匠を見せ、外壁を下見板張にするなど洋風の意匠となっている。内部は中央を壁で仕切り、それぞれ六畳と四畳半の和室と便所を持つ左右対称の平面であった。	解説・備考引用	アーカイブ新聞 707号、文化庁国指定文化財等データベース	大分類 建物 中分類 その他 小分類 様式 材料 木材、鉄板 指定種別 国登録有形文化財(建造物) 指定番号 13-0335 指定日付 2014年4月25日
英語名 Guard House			制作者 東京天文台 制作時期 1924年竣工 制作場所 東京都三鷹 印章・銘記		識別子 NAOJMIT0000005 収蔵場所 野外(三鷹本部)
正門	解説・備考	三鷹キャンパスの敷地東面に向いて建っている、国立天文台の玄関口を飾る門である。中央門と左右脇門の四本の門柱からなっている。門柱は鉄管を芯としたコンクリート造の表面に角石を乱れ張りして、隅部は几帳面を取り、柱頭と足下の石にはフルーティングを施してある。中央門柱の上には照明器具が付いている。	解説・備考引用	アーカイブ新聞 706号、496号、文化庁国指定文化財等データベース	大分類 建物 中分類 その他 小分類 門柱、門扉 様式 材料 コンクリート 指定種別 国登録有形文化財(建造物) 指定番号 13-0336 指定日付 2014年4月25日
英語名 Main Gate			制作者 東京天文台 制作時期 1925年 制作場所 東京都三鷹 印章・銘記		識別子 NAOJMIT0000006 収蔵場所 野外(三鷹本部)
ゴーチェ子午環室	解説・備考	ゴーチェ子午環を納める半円形立面を持つ建物である。子午環とは、子午線上の天体の精密位置観測のための観測機器で、軸線を正確に南北に据え、建物から独立した中央の基礎に置かれている。建物の基礎及び側壁は鉄筋コンクリート造で、東西に出入口を付し、屋根は鉄骨造で観測時には屋根中央が開く。半円形のドームと、台形の入り口の屋根、という異質な形を組み合わせることで、デザイン的な美しさをねらっている。	解説・備考引用	国立天文台ニュース2013年2月号 国立天文台アーカイブ・カタログ 第11回、アーカイブ新聞 784号、778号、730号、710号、文化庁国指定文化財等データベース	大分類 建物 中分類 観測施設 小分類 観測ドーム 様式 材料 コンクリート、金属 指定種別 国登録有形文化財(建造物) 指定番号 13-0331 指定日付 2014年4月25日
英語名 Gautier Meridian Circle Building			制作者 東京天文台 制作時期 1924年竣工 制作場所 東京都三鷹 印章・銘記		識別子 NAOJMIT0000007 収蔵場所 野外(三鷹本部)

[illegible]

60m鉄塔跡			
	解説・備考 1924年(大正13年)、文部省測地学委員会は、三鷹の天文台構内に高さ60mの鉄塔を4本建設した。これらの鉄塔に張られたアンテナは、フランスのポルドーから発信されていた国際報時信号を受信するために活躍した。今では草むらのなかに跡が残るのみである。	解説・備考 引用 アーカイブ新聞第164号、172号、173号、174号、177号、178号、181号、182号、191号、192号、217号、225号、253号、365号、414号、554号、723号	大分類 その他 中分類 小分類 様式 材料 金属、コンクリート
英語名		制作者 文部省測地学委員会 制作時期 1924年 制作場所 東京都三鷹 印章・銘記	指定種別 指定番号 指定日付
		識別子 NAOJMIT0000022	収蔵場所 野外(三鷹本部)

菱形基線東端点 	解説・備考 菱形基線は1915年(大正4年)、文部省測地学委員会によって天文台の敷地に設置された。菱形基線は一边が100mあり、端点に基準標識が埋め込まれている。現在、これらの基準標識はピラミッド型の覆いで保護されている。	解説・備考 アーカイブ新聞第137号、147号、527号、564号、566号、787号	大分類 観測施設
			中分類
			小分類
			様式
			材料 金属、コンクリート、石材
	制作者	文部省測地学委員会	指定種別
	制作時期	1915年	
	制作場所	東京都三鷹	指定番号
	印章・銘記		指定日付
英語名	識別子	NAOJMIT0000019	収蔵場所 野外(三鷹本部)

自動光電子午環第一子午線標室	解説・備考	自動光電子午環が真の南北を指向しているかを検証する手段のひとつとして、南北80mの場所に子午線標が置かれている。	解説・備考引用	アーカイブ新聞第244号、131号	大分類	建物
					中分類	観測施設
					小分類	観測補助
					様式	
					材料	木材
英語名			制作者	東京天文台	制作時期	1982年
			制作場所	東京都三鷹	指定番号	
			印章・銘記		指定日付	
			識別子	NAOJMIT0000012	収蔵場所	野外(三鷹本部)

カール・ツァイス20cm屈折望遠鏡	解説・備考	第一赤道儀室のドーム内にある口径20cmの屈折望遠鏡は1927年(昭和2年)に購入したカール・ツァイス製である。1938年から60年間、太陽黒点のスケッチ観測に活躍した。赤道儀は速度調整機構付重錘式時計駆動という方式で動く。電気がなくても約1時間半の天体追尾が可能である。	解説・備考引用	国立天文台ニュース2013年7月号	大分類	望遠鏡
					中分類	屈折望遠鏡
					小分類	
					様式	
					材料	金属、ガラス
英語名	Carl Zeiss 20cm Telescope		制作者	カール・ツァイス社	指定種別	
			制作時期	1927年以前	指定番号	
			制作場所	ドイツ	指定日付	
			印章・銘記	CARL ZEISS JENA		
			識別子	NAOJMIT0000052	収蔵場所	第一赤道儀室(三鷹本部)

国立天文台旧1号官舎(三鷹市星と森と絵本の家)	解説・備考	大正4年に建設された東京天文台官舎1号は、2009年(平成21年)、三鷹市登録有形文化財1号に指定された。三鷹市では取り壊される運命であったこの1号官舎を大正初期の建物として貴重であることから、有形登録文化財として残し、耐震構造を現在の基準にして建て替え復元し、「三鷹市星と森と絵本の家」として活用している。	解説・備考引用	アーカイブ新聞290号、193号、149号	大分類	建物
 					中分類	住居
 					小分類	
					様式	
					材料	木材
	制作者	東京天文台			指定種別	三鷹市登録有形文化財
	制作時期	1915年			指定番号	登録有形文化財1 建造
	制作場所	東京都三鷹			指定日付	平成21年5月19日
	印章・銘記					
	識別子	NAOJMIT0000786			収蔵場所	野外(三鷹本部)